

# 五峡の子

学校だより 11月号  
荒川区立第五峡田小学校  
校長 出井 玲子  
令和4年11月1日(火)  
TEL 3892-9515  
五峡小ホームページ

<http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/DAI5HAKETA-E/>

【学校教育目標】 「かしこい子」 「やさしい子」 「たくましい子」

## 演じるを通して ～ともに学ぶこと、伝えること～

校長 出井 玲子



11月は和風月名では霜月、冬のちょうど中間という意味で仲月とも呼ばれます。本当に霜の降りるような寒い日が続いていますが、子供たちは感染症予防を図りながら様々な学習や行事に取り組んでいます。

学校で「劇を演じる学習」を行うことについて、「演劇で物語や史実などを体験することで、日常においても他人の置かれた状況を想像する力を養うことができるようにする」という目標があります。そして、この経験で身に付けた「感受性」は、成長するに従いコミュニケーション能力に広がっていくとも言われます。私は、さらに表現力や集中力、協調性などを磨く機会にもなるのではないかと感じています。

今月11日(金)、12日(土)は本校の学芸会です。スローガン「練習の成果を発揮して 最高の学芸会にしよう」のもと、各学年の練習にも熱が入ってきました。芸術としての「演劇」には、見る人の心を揺さぶり感動を巻き起こす、という大きな力があります。演者同士のコミュニケーションが演者と観客(見る人)のコミュニケーションにつながるのだと思います。私自身、子どもの頃演劇部に所属し、演じる楽しさと難しさを実感しながら練習に励んだ経験があります。先生から繰り返しご指導をいただき、友達と何度も話し合いを重ねて創り上げた経験は、たった一言のセリフの作品も、多くの場面に出演した作品も何ものにも代えがたい大切な思い出となりました。

長年、劇団四季の演出を務められた浅利慶太さんは、「芸術による感動は私たちの生活、社会に欠かせないもの」として「人と人とのつながりが感じられる『劇場』という空間を通して、演劇という手段で【人生の感動】【生きる喜び】を届けます」とおっしゃっています。

子どもたちは、一生懸命にセリフを覚え、人物になりきって気持ちを伝える練習を重ねています。私は、その姿を見ているだけで、既に感動しはじめています。

保護者の皆様、どうぞ本番を楽しみになさってください。今年度も来賓の皆様のご招待を控えさせていただいており申し訳ありませんが、学芸会后ホームページに各学年の発表の様子を掲載しますのでよろしければご覧ください。